

令和 7 年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立八広小学校
校長名	勝田 光徳

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
・全学年・全教科、全 34 観点の平均正答率が全国平均を上回った【第 1 目標】。 ・国語科「思考・判断・表現」では、全学年 5 ポイント程度上回り、4 年生は 10 ポイント以上、全国平均を上回った。「知識・技能」では 5・6 年生が 5 ポイント以上上回った。 ・社会科「知識・技能」では全学年 5 ポイント上回った。特に、6 年生は 10 ポイント以上全国平均を上回った。 ・算数科の観点別平均正答率は全学年・全観点、4 ポイント以上全国平均を上回った。特に、4 年「思考・判断・表現」で全国平均を 10 ポイント以上上回った。 ・理科では、6 観点中で 5 観点が全国平均を 5 ポイント以上上回った。特に、6 年「知識・技能」では全国平均を 16.5 ポイント上回った。 ・英語科は全観点、7 ポイント以上全国平均を上回った。6 年生「思考・判断・表現」は 8.9 ポイント上回った。	・全学年・全教科、全 34 観点中の 9 観点が区の平均正答率を下回った【第 2 目標】。 ・国語科の「知識・技能」では、2～4 年生が区の平均より下回っている。特に 3 年生は「知識・技能」で 6.6 ポイント、「思考・判断・表現」では 1.8 ポイント区の平均から下回った。 ・社会科では 4 年生の「思考・判断・表現」で、区の平均より 1.7 ポイント下回った。 ・算数科では「思考・判断・表現」で、3 年生が 1.9 ポイント、5 年生で 1.1 ポイント、「知識・技能」では 6 年生が 0.7 ポイント区の平均より下回った。 ・理科では 4 年生「知識・技能」で、0.3 ポイント区の平均より下回った。 ・英語科は、英文の完成に関する問題の正答率が 67.5%とやや低い傾向にある。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
・「目標に向けて普段からこつこつ勉強している」において、肯定的な回答が 4 年生 80.0%で、区の割合 68.4%を上回っている。 ・「将来、あんな人になりたい、こんなことがしたいという夢や希望がありますか」では、3 年生 94.2 (89.2) %、4 年生 97.8 (88.4) %、5 年生 88.9 (87.1) %、6 年生 95.1 (83.4) %と肯定的評価が全国平均(カッコ内)を上回っている。	・「目標に向けて普段からこつこつ勉強している」の項目で 5 年生は 51.9 (63.1) %、6 年生は 54.9 (62.6) %で区の肯定的評価の割合(カッコ内)より下回っている。 ・「学校の授業以外で、週に何日くらい勉強していますか」において、「毎日勉強している」と回答した児童は、3 年生 31.4 (40.6) %、5 年生 16.0 (38.0) %、6 年生 23.5 (40.5) %と全国平均(カッコ内)を下回っている。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
【算数科 東京ベーシックドリル診断シートの結果】 ○平均正答率 (R6. 5月→R7. 5月との比較) ・3年…5月 53.4→57.6%となり正答率が4.2ポイント上がった。 ○満点率 (R6 との比較) ・5年…2.5→2.6%となり0.1ポイント上がった。	【算数科 東京ベーシックドリル診断シートの結果】 ○平均正答率 (R6. 5月→R7. 5月との比較) ・5年…57.6%→59.9% (－2.3) ・6年…49.7%→45.4% (－4.3) ○算数科正答率20%以下の単元 (正答率%) ・3年「たし算とひき算 (18.6%)」 ・6年「単位量あたりの大きさ (15.0%)」

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 年間を通した学力向上の取組 ～基礎・基本の定着に向け、取組の徹底を図る～

年間を通して、学力向上委員会を中心に学年を単位として計画的・組織的・継続的に取り組み、全学級で徹底することで各教科において基礎・基本の学習内容の確実な定着を図る。

時期	主 な 取 組				
4月	学力向上ふりかえり期間④【直前対策②】 ※学力引き継ぎ (学年間分析結果の引き継ぎ) ※区学力調査過去問題・類似問題の取組 ※家庭学習取組強化週間① 区学力調査・全国学力調査の実施	授業での「ふりかえりシート」や練習問題	さわやかタイム【朝学習 (火・水)・朝読書 (金)】	家庭学習 (音読、計算・漢字、社会、理科、日記、 「ふりかえりシート」、ミライシード等)	放課後補充教室・大学生チーム派遣事業 (大学生派遣は10月～)
5月	調査実施後の振り返り				
7月・8月	区学力調査結果分析・考察・実施計画作成 夏休み補習教室①・② ※学力調査結果の引き継ぎ (学年間共有)				
9月～ 10月	学力向上ふりかえり期間①【第1期】 ※家庭学習取組強化週間②				
12月	冬休み前ふりかえり期間 (「身に付けるべき学習内容」の定着度の確認)				
1月 ～2月	学力向上ふりかえり期間②【学年末重点】 ※家庭学習取組強化週間③ 後期学力テストの実施 (1月27日)				
2月 ～3月	学力向上ふりかえり期間③【直前対策①】 ※区学力調査過去問題・類似問題の取組 ※後期学力テスト結果分析及び取組 (間違えたところ、課題のあった単元は必ず復習し、習熟を図る。)				

①学習ふりかえり期間 (基礎・基本の確実な定着を図る重点期間)

- ・学習内容を確実に定着させるため、授業で「ふりかえりシート」等の主に「知識・技能」「思考・判断・表現」を定着させる学習教材を活用して定着を図る。併せて学年や単元の内容に応じて漢字・計算ドリルや学習アプリ、「問題データベース」などの練習問題等で習熟を図る。
- ・当該の一つ下の学年に本年度の学力調査の課題を伝える機会 (学年間共有) をもち、共有する。日頃

の授業で重点事項として指導するとともに、「学習ふりかえり期間」でも重点的に取り組む。

- ・学力テスト対策プリント（３年分を大問ごとにまとめたもの）を作成し、ふりかえり期間に実施する。

②学力向上委員会を中心に、学年を単位とした組織的な取組の徹底・継続

- ・授業（４５分）、朝学習（１５分）等の各教科の時間の大切に、学習内容の習熟については、「学力向上プラン」をもとに、学年を単位として全学年・全学級で徹底・継続を図る。
- ・各学年の取組については学力向上委員会が進ちょく・管理を行う。「ベーシックドリル診断シート」等は学年の実態に合わせて実施し、学力向上委員会が状況の把握、結果分析等を計画的に行う。

③後期学力調査の実施（学力向上の取組の効果検証）

- ・年度内の子供たちの学習の定着度及び各学年における取組の成果と課題を把握するため、１月下旬に学力向上マネジメント校として後期学力調査を全学年で実施し、取組の効果検証を行う。

④校内学力向上ヒアリングの実施

- ・管理職及び学力向上委員長等と学年で、「学力向上ふりかえり期間」等の前に、学年ごとに校内学力ヒアリングを行う。学力向上プランや学力調査の結果をもとに、課題や取組内容、進ちょく状況を共有したり確認したりする。

⑤計画的な家庭学習（宿題）の実施

- ・基礎・基本の定着のため、計画的に家庭学習を行う。音読（毎日）、漢字・計算ドリル、週末の日記、「ふりかえりシート」等の「知識・技能」「思考・判断・表現」を定着させる教材を学年の実態に応じて宿題として出す。授業や朝学習の時に答え合わせし、見直しをする（間違えたままにしない）。
- ・「家庭学習取組強化週間」を年３回設定し、保護者と連携して家庭学習の習慣を身に付けさせる。
- ・３年生以上は週に１回以上は社会科か理科の宿題を出すようにする。

⑥社会・理科の取組

- ・朝学習や家庭学習でも習熟の機会を設けて計画的に取り組む。
- ・社会では、問題解決型の授業を行い「知識・技能」「思考・判断・表現」を定着させる。用語（キーワード）を板書して指導し学習の振り返りで定着させる。授業や朝学習で、確認テストや自作プリント等を用いて、必ず覚えなければならない用語（キーワード）は確実に覚えさせる。
- ・理科では実験・観察をスモールスケールで行い、一人一人が操作できるようにし、主体的に取り組ませる。また、単元ごとに、クイズアプリ（カフト）を活用し学習内容を定着させる。正答率の低い問題はその場で解説・確認を行い、最後は確認テスト（紙教材）で習熟を図る。社会科同様、必ず覚えなければならない用語（キーワード）は確実に覚えさせる。

⑦朝学習「さわやかタイム」と朝読書の取組

- ・週３回実施される「さわやかタイム」について、学年ごとに計画を立て確実に実施する。

火…国語（漢字、読解、書くこと） 水…算数（計算） 金…朝読書

※３年生以上は社会科・理科についても計画的に取り組む。また、高学年については「YOMUYOMU ワークシート」に取り組む。

⑧放課後（夏季）補充教室・大学生チーム派遣事業による指導

- ・主にＣ・Ｄ層の児童を対象に放課後（夏季）補充教室・大学生チーム派遣事業を活用し、外部指導員による補充学習を行う。少人数での指導を行うことにより基礎・基本の学習内容の定着を図る。

（２）学力を定着及び向上させるための授業改善 ～学習内容の確実な定着に向けて～

- ・授業では、問題解決型の学習や体験学習を取り入れる。児童が自ら課題を設定し、課題解決を通して自ら考え判断し、表現できる能力を育成する。

- 0 復習（既習事項の確認）
- 1 課題提示（学習課題を立てる。めあてを提示する）
- 2 解決の見通しをもたせる
- 3 自力解決（自分で考える）
- 4 発表・検討（友達と考える）
- 5 まとめる（学習の振り返り）
- 6 適用問題（学習アプリ、練習問題で定着を図る）

- ・各教科の学習において、自分で考えたことを発表し、話し合う機会を設定する。各教室に話型を掲示し、自分の考えを発表したり話し合ったりできるようにする。グループ学習や対話型学習を取り入れ、友達の良さ考えを認め合い、協同して学ぶ意識をもたせながら学習を進めていく。
- ・1人1台端末（ロイロノートスクール）を活用し、子供たち同士の情報の共有や話し合いを効率的に行い、主に「学習意欲」及び「思考・判断・表現」を育成する。
- ・授業では「書くこと」に重点を置き、自分の考えや感想を文章に表す機会を設ける。また、学習の振り返り（復習）ができるようノートやワークシート書き取りを重視し、書き方を継続的に指導する。

②個に応じた指導を充実させる

- ・算数では、3年生以上で習熟度別指導を実施する。低・中学年には少人数指導や個別指導を通して個に応じた指導の充実を図り、「ふりかえりシート」等を活用し基礎学力の充実を目指す。実施後は必ず答え合わせや見直しを行い、間違えたままにしない。

③各教科で「各学年の終了までに必ず身に付けさせたいこと」を確実に身に付けさせる

- ・各教科で確実に身に付けさせる内容を決め、授業等で指導し、全児童に確実に身に付けさせる。

1年	10の合成、繰り上がり繰り下がりのあるたし算・ひき算	2年	かけ算九九、時刻と時間
3年	2けたをかける計算、わり算、ローマ字	4年	2けたのわり算、47都道府県
5年	小数のかけ算・わり算、分数のたし算・ひき算	6年	分数のかけ算・わり算
※単位についても各学年で身に付けさせる（2年長さ・水のかさ、3年重さ、4年面積、5年体積）			

（3）ICT機器の活用し、基礎基本の定着を図る取組

①興味・関心をもたせる授業を展開する。

- ・問題解決型の授業をより効率的に行うために、一人1台端末や大型モニターを活用する。ロイロノートスクールなどのソフトウェアを使って分かりやすく動画や資料などを提示したり、話し合い活動を充実させたりし、児童の興味・関心を高める授業を行う。

②一人1台端末を活用し、基礎基本の定着及び家庭学習の強化を図る。

- ・一人1台端末を活用し、学習アプリ（カフート）や「ミライシード」などのドリル系の学習を授業や家庭学習に取り入れ計画的に繰り返し行う。最後は確認テスト等の紙教材を用いて習熟を図る。

3 「令和8年度 墨田区学習状況調査」における目標（目的）

【第1の目標】

- ・全学年・全教科の観点別の平均正答率について全国平均以上を維持する。（すべての学年で国語科・社会科・算数科・理科・英語科の観点別の平均正答率で全国平均以上を維持する。）

【第2の目標】※更なる目標設定としてこちらを重点目標とする

- ・各教科の観点別の平均正答率で、全国平均以上を維持しつつ、墨田区の平均以上を目指す。